

NPO 法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3
国分寺マンション B-03A

2020. 10. 17 発行

(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

ニュース

ぼくの小学校は、かまぼこ兵舎だった。

三田村慶春 (NPO法人全日本語りネットワーク運営理事)

私が三歳になってまもない 1952 年頃から数年、家族は九州の表玄関・小倉市に住んだ。

父の仕事で広い製紙工場内の社宅に居を構えたのだが、夜になると数日おきに、静かな町を覆うような異様な臭いが、家の中まで漂ってきた。

「このいやなおいは、なに？ どこからくるの」

尋ねられた母は、ためらうように、応えた。

「これは、死んだ人を焼いている臭いだね。戦争で死んだ兵隊さんのだよ」

その頃の私には、どこで戦争が行われているのか、知る由もなく、遠い地の話に思えた。

学区改訂にて、小学 2 年生からは小倉城野小学校へと通うことになる。社宅とは通りを挟んで真向かい、子どもの足でも 3 分とかからない近さである。しかしこの学校は木造の校舎ではなく、正門を入った大きなコンクリートづくりの建物の前庭には大砲が据えられており、校舎は白いペンキの匂いが残る、かまぼこ型で洋風の平屋造りだった。ここは以前、アメリカ軍が暮らしていた跡地だと校長先生が言い、子どもたちには弾丸の薬莖拾いが課せられた。

小倉市城野 (現・北九州市小倉南区城野)。第二次大戦後数年、我が国全体が経済復興に邁進していた時代のさなか、隣国・朝鮮半島での朝鮮戦争に関わる事件が、この町で起こっていたことは、ほとんどの人に知られていない。

米軍による占領下、1950 年 7 月 11 日夜、前日、岐阜の駐屯地から城野駐屯地に送られてきた兵士の内、250 人ともいわれる脱走兵たちが、各種の銃を手に数人ずつに分かれ、小倉の街へと奔走し、市民への破壊、略奪、殺戮、女性を襲撃したのである。繰り出された米軍 2 個中隊との市街戦が数日繰り返され、15 日になってようやく鎮圧された。

当時、朝鮮半島では国連軍が北朝鮮軍に対し連敗を重ね、劣勢を打開するべく戦っていた。そのような戦況の中へ数日後には送り込まれることを察知した兵士たち (ほとんどが黒人兵) が、迫りくる恐怖と自暴自棄の精神状態に追い込まれて脱走した事件であり、生き残り逮捕された兵士たちも皆、数日後には激戦地への途を追い立てられ、戦死したという。

城野駐屯地から漂い、暗夜を覆う臭いは、朝鮮半島で斃れた兵士たちを荼毘に付していた臭いだったことを、長じてから知った。

この脱走、暴動事件は、GHQ の占領下で公にされることは制せられた。が、当時、朝日新聞西部本社広告部の社員であった松本清張の手によって 8 年後、世に明らかにされた作品が『黒地の絵』である。

国家、民族、宗教、階級……。組織の上に立つ者は、自らの保身を隠して、組織の正義を振りかざす過ちを犯すことがある。それ自体が狂気の沙汰となり得るし、その結果、市民や子どもたちの生命に狂気の弾が浴びせられ、極限状態へと追いやることにもなる。

語りつぐこと、語ること、聞く耳を立てる力が、自らを極限状態の絶望から解放してくれるはずだ。